

# 図書委員のおススメ本紹介

(図書館だより 令和5年 冬号 より)

## 『蜘蛛ですが、なにか?』(馬場翁著) H.T

僕がおススメする本は「蜘蛛ですが、なにか?」です。主人公は異世界の魔物に転生し、凶悪なダンジョンに生れ落ちます。しかし、元人間の知恵と持ち前のポジティブさで生き残っていきます。大変なことでもポジティブに考え今を楽しんでいるところがおもしろくて読んでいて楽しいです。戦うときは元人間の知恵で作戦を立てて格上の敵も倒していきます。どんなときも諦めずに最後まで生き抜くそんなところに感動したりもします。異世界転生系の本が好きな人はぜひ読んでみてください。

## 『自縛少年花子くん』(あいだいろ著) K.U

自縛少年花子くんは学校七不思議の七番である、トイレの花子さんこと花子くんと主人公である寧々の二人が、七不思議について関わっていく物語です。この物語で出てくる七不思議は思いうかべているような姿ではなく、少し変化していてとても独特です。例えば本の名前にもなっているトイレの花子さんが男の子になっていたり、見ていて飽きないようになっています。この花子くんと寧々が七不思議に関わっていくと意外な展開になったり、おもしろい場面も多くあるので、一巻から順に読んでくれると嬉しいです。なお、マンガだけではなくアニメ版もでているので見てほしいです。

## 『君が永遠の星空に消えても』(いぬじゅん著) K.N

この季節にぴったりな本を紹介します。この本はいぬじゅんさんの流星群シリーズ第三弾です。一作、二作目もとても感動するのでぜひ手に取ってみてくださいね。

では、あらすじに入っていきます。難病で入院している恋人・<sup>いっせい</sup>杏星のために写真を撮る高二の<sup>もな</sup>萌奈。いつか写真の場所にふたりで行こうと約束するが、その直後彼は帰らぬ人となってしまふ。萌奈は、流星群が奇跡を運ぶという言葉の伝えを知り「どうかもう一度だけ会いたい」と願う。すると杏星が元気な姿で戻ってきた。幸せな日々を歩んでいた二人だが、杏星にはタイムリミットがあった…。とこんな感じです。

感想はやっぱり最後のシーンが一番印象に残っています。この季節にもう一度読んでみると、とてもイメージしやすいです。では、気になった方はぜひ手に取ってみてくださいね。

## 『北上症候群』(いぬじゅん著) K.N

この本はまだ読み終えていませんが、とても面白い内容なのでおススメしました。

今日も続きを読んでいたのですが、途中でとても感動して泣きそうになりました。それくらいおススメなので、ぜひ手に取ってくださいね。

では、あらすじです。「嘘、でしょう？」神戸に住む<sup>ことば</sup>琴葉がある朝出社すると会社は倒産。札幌にいる遠距離恋愛中の恋人・海斗に電話し不安をぶつけるが、彼の反応はなぜか歯切れが悪い。見え隠れする元カノの影。悩む琴葉は、衝動的に深夜特急に乗り、彼に会いに行くが…。車中、訳ありな面々との出会いが彼女の心を変えていく。とこんな感じです。ちなみに、車中の話がとてもおもしろいので注目してみてくださいね。

## 『いつか、眠りにつく日』(いぬじゅん著)

K.N

この本は死と未練のお話です。このシリーズは三作品あってこの作品は第一作品目です。なので二、三と続けて読むと、とてもおもしろいと思います。

では、あらすじです。高二の女の子、蛍<sup>ほたる</sup>は修学旅行の途中、交通事故に遭い、命を落としてしまう。そして、案内人・クロが現れ、この世に残した未練を三つ解決しないと成仏できないと蛍に告げる。未練のひとつが五年間片思いしている蓮<sup>れん</sup>に告白することだと気づいていた。だが、蓮を前にしてどうしても想いを伝えられない。蛍の決心の先にあった秘密とは…？とこんな感じです。

この本を読んで、クライマックスが衝撃の展開でした。そして、話が進むごとに成長する蛍を見て、単純にすごいなと思いました。気になった方はぜひ、手に取ってみてくださいね。

## 『今宵も喫茶ドードーのキッチンで』(標野凧著)

K.N

この本は本屋で目に留まった本でした。満月珈琲店という作品にはまっていたときに買った本です。どちらも似たような話で、色々な人の悩みを聞く話です。いつもと違うジャンルの本でしたが、新鮮でとても心温まるお話でした。

では、あらすじです。住宅地の奥でひっそりと営業しているおひとりさま専用カフェ「喫茶ドードー」。この喫茶店は、がんばっている毎日からちょっとばかり逃げ出したいお客さんがふらりと訪れる。SNSで発信されていることに振り回されたり、仕事をひとりで抱え込み体調を崩したりなど、世の中で疲れた体と心を美味しい料理が優しくほぐします。とこんな感じです。

読んでいて、私もこの料理食べてみたいと、つい思っちゃいました。気になった方はぜひ手に取ってみてくださいね。

## 『十月の終わりに君だけがいない』(いぬじゅん著)

K.N

この本が掲載されるときには十月は終わっているかもしれませんが、とても感動したのでおすすめします。こちらはタイムリープのお話です。最近読み終えましたが、なんて儚くてロマンチックな物語だろう、と思いました。

では、あらすじです。高二の由芽<sup>ゆめ</sup>には、昔から繰り返し見る夢があった。古い神社、学ラン姿の青年、悲しい別れ…。それはまるで前世の記憶のようにリアルで切ない夢。そんなある日、夢の中の青年にそっくりな蒼杜<sup>あおと</sup>が転校してくる。彼は「君は十月に死ぬ運命だ」と突然宣告されてしまう。実は蒼杜は夢を死なせないために過去から来た人物だった。夢の中での恋が現実になっていくが、どうあがいても彼とは結ばれないと知って…。と、この続きが気になる人はぜひ、手に取ってみてくださいね。